野原集落のサーツキ゜ニガイ祭祀

新垣則子・佐藤宣子

野原集落は、宮古島の中央部に位置する。1716年に野原村として村立てがなされた。1908年、沖縄県及島嶼町村制の施行により下地村字野原となり、1948年、字宮国、字新里、字嘉手苅の一部と共に下地村から分離し上野村となった。2005年、5市町村合併により、宮古島市上野字野原、と行政上の所属が変遷している。字野原は野原、豊原、千代田という3つの行政区（この行政区を集落と呼ぶことにする）に分かれている。各集落ではそれぞれ独自の祭祀が行われている。

現在、字野原の主集落である野原は110戸、約230人が住み、サトウキビ作や肉用牛の飼育を主なる生業としている。

集落背後には、標高約110メートルの野原岳がある。この岳には14世紀まで、大嶽按司の居城大嶽城があったことが伝えられている。現在岳内には、集落の人々が最も尊崇する大御嶽（ウプタキ）（ウプタキ御嶽ともいう）をはじめ、中（ナカ）御嶽、西（イズ）御嶽、タマザラ御嶽、ウティンドウなどの拝所が散在している。また、かつて集落の人々が飲み水として利用し、今でも聖なる泉と崇めるツガガー（クスヌカーともいう）やマイヌカーもある。一帯は眺望の良さなどから、岳の南側は公園として整備されている。公園に隣接して、航空自衛隊那覇基地宮古島分屯基地がある。

集落内には、ムムクリャ、カーニザー御嶽、スミャーザ御嶽、サトゥヌヌス御嶽、ボウ御嶽、バサナカ御嶽があり、集落民はこれらの御嶽等で、年間を通して数十の祭祀を行なっている。

私たち二人は、2013年10月22日に行われた、年間祭祀の一つであるサーツキ゜ニガイを、調査する機会を得た。本報告はその時のメモと後日の補足調査による。

1　祭祀名と祭日

サーツキ゜とは旧暦9月のこと。9月に行うことからサーツキ゜ニガイという。別名ウプユーダミニガイ゜ともいう。また、この月はカンヌツキ゜（神の月）とも呼ばれ、個人のマウ（守護神）をカミル（戴く）儀式もおこなわれるという。

サーツキ゜ニガイは、旧9月の子・卯もしくは酉のいずれかの日に行う。日取りは、集落の公的神役であるチョウヌヌス（帳の主・男性）によってなされ、今年は旧9月18日辛酉（新暦10月22日）に行われた。

※　昭和初期には3晩、昭和60年頃には1晩御嶽に籠もって行ったという。

2　目　的

旧９月は季節の変わり目で、人々は風邪の流行等で体調を崩しがちである。そこで、ツカサやサスを中心とする神役らが御嶽に籠もって、村人の健康とともに、各家の繁栄、農作物の豊穣、集落の繁昌と安寧などを祈願する。

3　祭祀組織

野原集落には、集落レベルの祭祀に携わるチョウヌヌス（帳の主・男性）、ツカサ（司・女性）、庶務等を担当するカントゥク（監督・男性）がいる。チョウヌヌス・ツカサの任期は５年、カントゥクは１年で交替する。ツカサには１年任期のトゥム（供）が付き雑務を担う。

一方、このサーツキニガイがおこなわれる大（ウブ）御嶽、中（ナカ）御嶽、西（イズ）御嶽、ムムクリャの各御嶽には神役がいる。（表１）

表１　野原集落の神役

役名	性別	任期	所属	役割
チョウヌヌス（帳の主）	男	5年	大御嶽	祭祀の日取りなどを取る。
ツカサ（司）	女	5年	大御嶽	集落レベルの祭祀を主宰する
ユーザス（世サス）	女	5年	大御嶽	大御嶽の祈願役。
ミルクザス（弥勒サス）	女	5年	大御嶽	大御嶽の祈願役。
ヤク（役）	男	2年	大御嶽	大御嶽の祈願役。2年目は中御嶽のヤクに異動する。
ツカサトゥム（司の供）	女	1年	大御嶽	1年間、ツカサを補佐する。
ユーザスのトゥム	女	1年	大御嶽	サーツキ゛ニガイでユーザスを補佐する。
ミルクザスのトゥム	女	1年	大御嶽	サーツキ゛ニガイでミルクザスを補佐する。
チョウヌヌスのトゥム	男	1年	大御嶽	サーツキ゛ニガイで、チョウヌヌスを補佐する。
ヤクのトゥム（役の供）	男	1年	大御嶽	サーツキ゛ニガイで、ヤクを補佐する。
ソウム（総務）	男	1年	全般	祭祀に関わる庶務を担当する。
サス	女	5年	中御嶽	中御嶽で行われるサーツキ゛ニガイを主宰する。祈願役。
ヤク	男	2年	中御嶽	祈願役。2年目はウブ御嶽のヤクに異動する。
サスのトゥム	女	1年	中御嶽	中御嶽のサスを補佐する。
ヤクのトゥム	男	1年	中御嶽	中御嶽のヤクを補佐する。
サス	女	5年	西御嶽	西御嶽で行われるサーツキ゛ニガイを主宰する。祈願役。
ヤク	男	1年	西御嶽	祈願役。
サスのトゥム	女	1年	西御嶽	西御嶽のサスを補佐する。
ヤクのトゥム	男	1年	西御嶽	西御嶽のヤクを補佐する。
サス	女	5年	ムムクリャ	ムムクリャで行われるサーツキ゛ニガイを主宰する。祈願役。
ヤク	男	1年	ムムクリャ	祈願役。
サスのトゥム	女	1年	ムムクリャ	西御嶽のサスを補佐する。
ヤクのトゥム	男	1年	ムムクリャ	西御嶽のヤクを補佐する。

4　拝所

(1) 大御嶽

大嶽公園の南西部に位置する。７坪程の赤瓦屋根の祭祀小屋が建っている。

小屋から北へ向かって階段が十段程ある。五段目の右端に１つ、階段を上りきった所に４つのイビがあり、それぞれ香炉が設置されている。祈願は小屋の中に新たに別の香炉を置いて行われる。

祭神：ピギタリユーヌヌス（大嶽按司の長男。五穀豊穣の農業神）

図１　祭場の位置関係

(2) 中御嶽

大嶽公園の北部に位置する。大嶽城の東門があった所と伝えられる。３坪程のコンクリートの祭祀小屋があり、この中で祈願は行われる。

祭神：チルヌアズ（大嶽按司の次男）

(3) 西御嶽

航空自衛隊宮古島分屯基地の北西側に位置する。大嶽城の西門があった所と伝えられる。３坪程のコンクリートの祭祀小屋があり、この中で祈願が行われる。

祭神：カナマルカナアズ（大嶽按司の三男）

(4) ムムクリヤ

集落内の通学路に面して位置する。３坪程のコンクリートの祭祀小屋があり、この中で祈願が行われる。

祭神：ウイカヌス（学問の神、帳の主、命主）

5　祭祀の概要

(1)前日までの準備

① カントゥクは線香・米・塩・切り干し大根・香炉用の灰などを４御嶽分買い求める。

② 上記４御嶽のサスとトゥムはツガガーを参拝した後、そこから水をポリタンクに汲んでくる。水はお茶、洗米および祭祀用具の洗浄等に使う。

③ ツカサおよび４御嶽のサスとトゥムは、ユーザス宅に集り、祈願に使う酒ジョーと盆ジョーを、半紙を折って作る。４御嶽のトゥムはそれを自宅に持ち帰り祈願当日まで預かる。

写真① 小瓶に入れた酒ジョー・供物を載せた盆ジョー

④ カントゥクは、４御嶽の祈願で使用する米・塩等をユーザス宅で配分する。４御嶽のトゥムはそれを自宅に持ち帰り祈願当日まで預かる。

⑤ カントゥクは、重箱５個分（大御嶽は２個、その外の御嶽は各１個）の切り干し大根料理を自宅で下ごしらえする。

(2)当日の午前

サーツキ゜ニガイは、４つの御嶽で同時進行の形でおこなわれる。今回は、大御嶽の様子を中心に記す。

※ ツカサ、ミルクザス、ユーザス、ヤク、チョウヌヌスがそれぞれのトゥムを伴ってウプ御嶽に籠もり祭祀を執り行う。今年はチョウヌヌスは所用で参加できず、そのトゥムが代役を務めた。

① 午前９時前、ツカサ等女性神役は、前日から準備した線香や供物を携え、トゥムの運転する車に同乗し、大御嶽に入る。

② 午前９時頃、既にウプ御嶽に入っていた男性神役らも併せ、参加者全員で御嶽境内の清掃を行う。

③ 神役達は、祭祀小屋の左隅に置かれていた、四角いコンクリート製の香炉５個の灰を少し残して小屋の外にこぼす。 次に、新しい灰を継ぎ足して、今日の祈願に使用する香炉を調える。それを、階段の上のイビに向かう形で、横一列に並べる。これは、ツカサ・ユーザス・ミルクザス・チョウヌヌス・ヤクの香炉だという。香炉は、２年前までは神役各が家から持参したとのことであるが、現在は、自治会で拵えたものを、小屋内に保管しておき、それを使用しているとのことである。

④ 香炉が並べられると、ツカサトゥムがムシロを敷いて、祈願席を準備する。

⑤ ヤクのトゥムは、お茶を沸かす。

⑥ ツカサ・ユーザス・ミルクザスのトゥムは線香を数えて糸で結わえる。

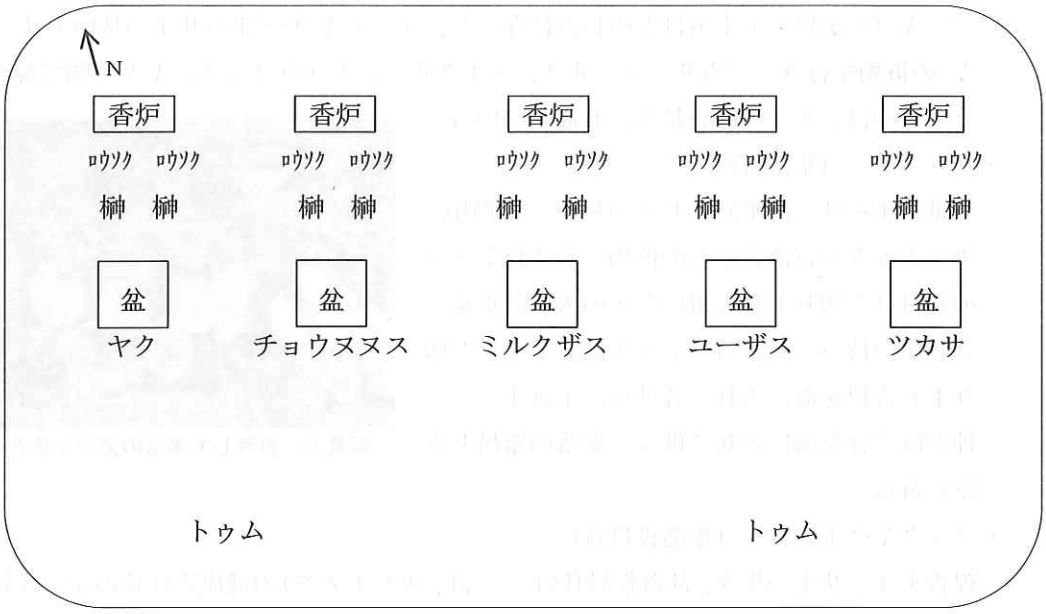
⑦ ツカサ、ユーザス、ミルクザス、チョウヌヌス、ヤクの５人は、神衣装をまとい、それぞれ所定の位置に着き、供物を並べ始める。

・ロウソクを立てる。

・榊を生ける。

・神役各自の盆に、徳利２本、酒１カップ、お茶１茶碗、茶請け１皿を置き、盆ジョーと呼ばれる白紙の上に塩、トーフ・煮干し、洗い米、ターラを飾る。

図２　祈願座の配置



⑧ 線香を焚く

・ タチョウゴー（茶立香）

供物を飾り終えると、神役はそれぞれの前に置いた香炉に、まず香を１バリ焚いて、神々にお茶を捧げる。

１バリとは、６つの筋状からなる平香１片のことである。

・ アンナイゴー（案内香）

４バリを一括りにしてツカサから順に自分の前の香炉に立てきょうの祭祀の案内をか

ける。線香に火を点けて差し出すのはトゥムの役目である。５つの香炉に線香が立てられると、ツカサの合図で神役は一斉に合掌する。

・ヤーキゴー（各家庭の香）

アンナイゴーが半分ほど燃えた頃、ツカサが目前の香炉に自分のヤーキゴー（家庭の香）を焚き家族の健康・家の繁栄を祈る。次にユーザス・ミルクザス・チョウヌヌス・ヤクは順次、線香をツカサに手渡して世帯主の干支を言い、ニガイ゜言葉を唱えてもらったうえで、各自の香炉に立てる。

写真②　祈願する神役達

・ユミアギゴー（読み上げ香）

ヤーキゴーが燃えて半分ほどの長さになると、ユミアギゴー24バリずつ焚いてサーツキ゜の祈願を行う。ツカサ、ユーザス、ミルクザス、チョウヌヌス、ヤクの順で線香を立てるのは、すべての香焚きに共通している。

・ブラクゴー（集落香）

各世帯１バリ、計120バリずつ焚く。10時頃、カントゥクが自治会からの供物である白トーフの煮付けと切り干し大根いための入った重箱を２個ずつ持って訪れる。トゥムは、トーフと切り干し大根を皿に入れ、各神役に手渡す。

神役はそれを盆にのせて供え、集落の繁昌と安寧を祈る。

写真③　献饌して集落の繁栄を祈る

・ブラクヤクインゴー（集落役員香）

線香を４バリずつ焚き、部落役員（区長、会計、カントゥク）の健康と任務の全うを祈る。

・個人の祈願

集落の人々が三々五々、線香、酒、塩、煮干し洗米や賽銭を持って参拝に訪れる。一世帯ずつ順にこれらの品々を供え、ツカサが、神に世帯員の干支を告げ、各家庭のねがいことを述べて祈願する。村人は、神役からお茶・てんぷら等のもてなしを受けながら、しばらく談笑して過ごす。帰りの際は、神様からの贈り物である

写真④　大御嶽を詣でる村人達

ユー（豊穣）として、お菓子を頂く。

(3)当日の午後

① 昼食

神役たちは、それぞれが持参した弁当や自治会からの差し入れ等を供えた後、車座になって昼食をとる。弁当には、肉を入れない、ということである。

② ザー替え

午前中に供えたお茶、酒、塩、トーフ・煮干し、お菓子等、盆の上の供物は、ウイ（上、供物の一部分）をクワズイモの葉で包み、祭祀小屋のサイ゜ヌパ（申の方）におく。供物の残りも全部下げる。新たに供物を飾り、ザーカイゴー（座換え香）を4バリずつ焚く。供物の種類は、午前中と総て同じである。

③ マンサンゴー

祈願に訪れる集落民が引けると、マンサン香として24バリずつ焚き、線香が燃え尽きると神役達も御嶽を後にして、サーツキ゜ニガイを終了する。

（文責・新垣則子　宮古島市史編さん嘱託）